

# 施策評価シート

評価実施年度：令和元年度

幹事部局

環境生活部

<p>施策の名称</p>	<p>施策Ⅲ－２－３ 文化芸術の振興</p>
<p>施策の目的</p>	<p>広く県民が文化芸術を鑑賞し、参加し、創造することができる環境づくりを目指します。</p>
<p>施策の現状 に対する評価</p>	<p>(鑑賞・参加・創造の機会 県立文化施設の入館者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立文化施設の入館者数は、県立美術館、芸術文化センターにおいて目標を上回り、前年度より142千人(13.4%)の増加となった。特に県立美術館では、リニューアルオープンや集客力のある企画展により大きく入館者数を伸ばし、また、外国人入館者も平成28年度に初めて千人を超えて以降、平成30年度は2千人に迫る勢いであった。県民会館、芸術文化センターいわみ芸術劇場においては、県民ニーズに対応したコンサートや芸術性の高い公演、演劇、落語など幅広いジャンルの公演を実施し文化事業への参加の機会を確保した。</li> </ul> <p>(県民文化祭への参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県民文化祭の参加者数は全体としては減少したが、文化芸術次世代育成支援事業、総合美術展等の主催事業は昨年並みの参加者数を確保した。一方で、参加者が固定化・高齢化している。</li> </ul> <p>(青少年の文化活動推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数が減少傾向にある中、高校生の文化部参加率は30%を維持しており、青少年の文化活動推進の取組につながった。一方、教員の多忙化や必要な知識や技能等を指導できる教員の不足等による指導不足の状況があり、次代の文化活動の担い手育成の体制整備が求められている。</li> </ul>
<p>今後の取組み の方向性</p>	<p>(鑑賞・参加・創造の機会 県立文化施設の入館者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立美術館では、リニューアルした施設・設備や貴重な収蔵品なども活用し、親子向けの企画や展示関連のイベントなどを充実させる。石見美術館では、ファッション等、特色あるコレクションを活用した企画、複合施設の特性を生かしたイベントの開催や情報発信の工夫などにより、首都圏からの集客増にもつなげていく。</li> <li>県民会館、いわみ芸術劇場は、館内でのホールイベントやワークショップの充実を図るとともに、公立文化施設・教育施設を活用したアウトリーチ活動(関係団体等と連携したイベント等の実施)を積極的に展開し、県民の文化事業への参加を促進する。</li> </ul> <p>(県民文化祭の参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若年層の取り込み、新規参加団体の掘り起こし等に努め、幅広い県民が参加できるような取組を各文化芸術団体等との連携により進めていく。</li> </ul> <p>(青少年の文化活動推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校・地域・文化芸術団体等と連携して、児童・生徒に多様な文化芸術に触れる機会等を充実させ、文化活動への意欲・関心を高めていく。また、学校の文化部活動においては、研修会等を通じて生徒たちが専門的で技術的な指導を受ける場を確保するとともに部活動指導員及び地域指導者を活用する学校を支援することで文化部活動の活動水準の維持・向上を図っていく。</li> </ul>

## 施策に関連する指標の一覧

施策の名称	施策Ⅲ－２－３ 文化芸術の振興
-------	-----------------

施策の目的達成に向けて取り組む事務事業において設定している主な成果参考指標

項番	施策の成果参考指標	指標名	平成27年度	平成30年度		令和元年度	単位
			実績値	目標値	実績値	目標値	
1	○	県民文化祭の参加者数	45,231.0	50,000.0	33,821.0	50,000.0	人
2		島根県文化奨励賞の表彰件数	2.0	2.0	2.0	2.0	件
3		情報誌「キャッチ」発行部数	12,000.0	12,000.0	12,000.0	12,000.0	部
4		一般財団法人地域創造による文化活動助成への県内申請件数	4.0	4.0	3.0	4.0	件
5	○	県立美術館入館者数	227,657.0	240,000.0	360,256.0	240,000.0	人
6	○	芸術文化センターの入館者数	393,066.0	330,000.0	384,024.0	330,000.0	人
7		美術品取得点数	163.0	15.0	77.0	15.0	点
8	○	県民会館大ホール及び中ホールの利用者数	129,886.0	170,000.0	159,258.0	170,000.0	人
9		県民会館文化事業による参加者数	49,931.0	38,000.0	51,453.0	38,000.0	人
10		高校における生徒の文化部への参加率 (県高文連加盟校)	30.6	30.0	30.0	30.0	%
11		全国高等学校総合文化祭への参加部門数	15.0	16.0	15.0	16.0	部門
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

事務事業の一覧

施策の名称	施策Ⅲ－２－３ 文化芸術の振興
-------	-----------------

	事務事業の名称	目的 (誰(何)を対象として、どのような状態を目指すのか)	前年度 事業費 (千円)	今年度 事業費 (千円)	所管課名
1	創造的な文化活動推進事業	文化活動を行う県民が自主的な文化活動を促進し活動水準を向上させる。	19,658	24,887	文化国際課
2	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業	文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を顕彰する。	123	175	文化国際課
3	芸術・文化の情報発信・収集事業	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る。	10,705	10,502	文化国際課
4	県立美術館事業	美術に対する県民の興味や関心が高まる。	391,901	413,582	文化国際課
5	芸術文化センター事業	文化芸術に対する県民の興味や関心が高まる。	421,126	429,670	文化国際課
6	美術品等取得	県民に優れた美術に触れる機会を提供する。	481	492	文化国際課
7	県民会館事業	県民及び文化芸術団体などに、幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られるようにする。	222,598	249,928	文化国際課
8	青少年文化活動推進事業	児童・生徒の「豊かな心」を育むとともに、地域との連携により次代の文化活動の担い手を育成する。	8,680	8,871	社会教育課
9	部活動地域指導者活用支援事業	生徒の「豊かな心」を育むとともに、地域との連携により次代の文化活動の担い手を育成する。	8,677	13,683	社会教育課
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
-------	--------------------

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

名称	創造的な文化活動推進事業				
目的	誰(何)を対象として	文化活動を行う県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する		19,658	24,887
			うち一般財源	8,958	9,687
今年度の取組内容	県民文化祭の開催や舞台芸術の制作上演等、県民が企画段階から参加し創り上げる島根の芸術文化の事業を行う。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	県民文化祭の参加者数	目標値		50,000.0	50,000.0	50,000.0	50,000.0	人
		(取組目標値)							
	式・定義	出演者・応募者と来場者数の合計	実績値	45,231.0	39,613.0	35,900.0	33,821.0		
			達成率	-	79.3	71.8	67.7	-	%
2	指標名		目標値						
		(取組目標値)							
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
【各県民文化祭主催事業参加者数】※30年度(29年度)実績 ①文化芸術次世代育成支援事業 4,920(4,963) ②県総合美術展(県展)開催事業 8,205(8,333) ③特別参加展(硬筆アート展)開催事業 669(638) ④『島根文芸』発行事業 1,035(923) ⑤文芸フェスタ開催事業 331(471)									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「島根県文化芸術振興条例」の制定を踏まえて、文化芸術の裾野の拡大、次世代育成に主眼をおき、県民文化祭への若者の参加拡大や文化芸術の担い手の育成などの取り組みを強化している。平成24年度から開始した文化芸術団体が学校などに出向いて実技指導・合同公演を行う文化芸術次世代育成支援事業は、各実施団体と連携して多くの学校の参加につながっている。平成24年度に12ヶ所、2,515名の参加から平成30年度には42ヶ所、4,920名の参加となっている。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主催事業については、参加者が固定化・高齢化している。</li> <li>共催事業の新規申請件数が少なく、参加者数は隔年開催の事業の影響を受けて変動している。</li> <li>文化芸術次世代育成支援事業について、県内文化団体の参加や学校からの実施希望は年々増えているが、国からの助成金の額により事業規模が左右され、石見や隠岐地域での実施増が図りにくい状況にある。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>主催事業について、県展、文芸作品公募への小中高校生の参加が少ない。</li> <li>市町村単位で開催される文化祭について、共催事業への参加が少ない。</li> <li>文化芸術次世代育成支援事業について、県からの事業要望額に対する国の助成金の採択率が近年低くなっている。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民文化祭については、積極的な広報に努め、幅広い県民が参加できる開かれた文化祭にするとともに、主催事業については、小・中・高校生等、広く若者を取り込んだ文化祭とすることにより、担い手の育成に努め、文化活動の裾野の拡大を図る。また、共催事業については、市町村文化協会等への参加の働きかけ等を行い、新規参加団体の掘り起こしにより、参加団体の増加に努める。</li> <li>文化芸術次世代育成支援事業については、各実施団体が行うワークショップ、公演等と連携して、県展、文芸作品公募への参加につなげるためにも、県内各地域において事業が実施できるよう事業内容の見直しや国庫補助などの活用により事業費の確保に努める。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3
-------	---------

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

名称	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業				
目的	誰(何)を対象として	文化芸術活動を行う県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。		123	175
			うち一般財源	123	175
今年度の取組内容	本県の文化の発展に貢献することが期待され、活動を奨励するにふさわしいものに奨励賞を贈り、これを顕彰する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直した点	受賞者及び文化奨励賞のPRのため、県の広報誌「フォトしまね」に受賞団体2団体の記事を掲載した。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	島根県文化奨励賞の表彰件数	目標値		2.0	2.0	2.0	2.0	件
		(取組目標値)							
	式・定義	表彰件数	実績値	2.0	2.0	2.0	2.0		
		達成率	-	100.0	100.0	100.0	-	%	
2	指標名		目標値						
		(取組目標値)							
	式・定義		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%	
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本県文化振興への貢献が期待できる活動を行っているものを平成2年度から毎年1～2名表彰しており、平成30年度までに57個人・団体が受賞。</li> </ul>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	「島根文化奨励賞」受賞者の活動記事が、県の広報媒体である「フォトしまね」に掲載され、活動をアピールするとともに、賞の周知も行う事ができた。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	表彰対象者として推薦される件数が減少している。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の活動等を十分に把握できていない。</li> <li>表彰制度の周知が十分にできていない。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞・情報誌・TVなどからも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握していく。</li> <li>県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組みを進める。</li> <li>市町村・団体等に引き続き積極的な推薦を働きかける。</li> </ul>

# 事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策 施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

名称		芸術・文化の情報発信・収集事業				
目的	誰(何)を対象として	市町村、文化団体、文化施設、県民等		事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る。			10,705	10,502
				うち一般財源	0	86
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の芸術文化に対する助成情報等を収集し、速やかに、かつ確認しやすい形で、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供する。</li> <li>・助成を希望する事案について、市町村等から情報提供を受け、申請の可否、内容等の相談に乗る。</li> <li>・各種助成事業の活用状況(申請・採択件数等)を情報提供するなど、今後の取組の参考にしてもらい、助成事業の有効活用に努める。</li> </ul>					
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	なし					

## 2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	情報誌「キャッチ」発行部数	目標値				12000.0	12000.0	部
	式・定義	発行部数	実績値	12000.0	12000.0	12000.0	12000.0		
			達成率	-	-	-	100.0	-	%
2	指標名	一般財団法人地域創造による文化活動助成への県内申請件数	目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	件
	式・定義	申請件数	実績値	4.0	4.0	4.0	3.0		
			達成率	-	100.0	100.0	75.0	-	%
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の助成情報等は、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供している。</li> <li>・地域創造の助成金申請は、平成22年度以降、毎年度、平均4件程度の申請がある。</li> <li>・様々な助成事業を活用し、芸術文化に関わる人材や団体の育成・支援の取組が行われている。(H30申請実績～自治総合センター：6件、日本芸術文化振興会：5件、エネルギー文化・スポーツ財団：28件ほか)</li> </ul>									

## 3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種助成事業に関する情報を市町村や文化団体等に周知することで、中山間地域や離島等も含めた県内各地で文化・芸術的な活動が実施され、県民が芸術文化を鑑賞し、自ら参加する機会が増加している。</li> <li>・県民が生の芸術文化に触れることで、より興味・関心を高め、自主的・創造的な活動に繋がっている。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	なし
	② 上記①(課題)が発生している原因	なし
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	なし

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3
-------	---------

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

名称	県立美術館事業				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どうい状態を目指すのか	美術に対する県民の興味や関心が高まる		391,901	413,582
			うち一般財源	305,974	314,136
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成11年3月に開館した県立美術館において、企画展・常設展の実施、教育普及活動、調査研究等の美術館活動を実施し、県民の文化活動の拠点とする。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名 美術館入館者数	目標値		240,000	240,000	240,000	240,000	人
		(取組目標値)						
	式・定義 入館者数	実績値	227,657.0	229,038.0	203,654.0	360,256.0		
		達成率	-	95.5	84.9	150.2	-	%
2	指標名	目標値						
		(取組目標値)						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度は、リニューアルオープンや集客力のある企画展により、入館者が36万人を超え、開館2、3年目や10周年記念展の時期と同じ程度を記録した。</li> <li>入館者の内訳は、60歳以上の方が大半を占め、女性の割合が高い状況は変わらないが、企画展の内容により、例年よりも若い世代及び男性の割合が高かった。</li> <li>外国人は平成28年度に初めて1,000人を超えて以降、引き続き増加傾向にあり、2,000人に迫る勢いである。</li> <li>平成25年から始めた「かぞくの時間」の取組や、「ファミリーデー」「ミュージアムフェスティバル」などのイベントに加え、リニューアルでキッズライブラリー等を整備したことにより、ますます若年層や子ども連れの来館を呼び込んでいる。</li> </ul>								

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こどもから大人まですべての人が楽しめる美術館」を目指して実施した改修工事、リニューアルオープンの効果もあり、子どもや家族連れ、外国人等の来館が増加した。また、大きな集客力のある企画展を連続して開催することができ、若年層、県外者など普段の客層とは異なる集客が可能となった。</li> <li>指定管理者も含め、美術館全体として展示やイベント等を企画・実施することができ、県民に、より身近な美術館として認識してもらうことができた。</li> <li>平成29年度に寄贈されたコレクションの平成30年度に実施したお披露目の展覧会は大盛況であった。コレクションの注目度、活用に対する期待も非常に大きく引き続きそれに応えていく必要がある。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>集客が企画展内容に大きく左右されるため、目標値24万人の連続達成は不透明である。</li> <li>企画展が開催されていない期間の集客が低調である。</li> <li>美術品等の展示・保存にとって重要な照明設備や常に適切な温度・湿度管理ができる空調設備等の環境を整えるため、適切な維持管理に努めているが、空調等については、緊急修繕の機会も増大している。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算の制約がある中で、多くの誘客が可能となる企画展を継続的に開催することが難しい。</li> <li>コレクション展による誘客促進が難しい。</li> <li>開館後の年数経過で、美術館自体の目新しさ、来館に繋がるきっかけが少なくなっている。(観光等を意識した企画が十分にされていない。)</li> <li>経年による施設設備等の性能劣化や老朽化が進んでいる。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度から展覧事業と教育普及事業の予算をまとめ「企画展総合事業」としたことも踏まえ、学芸員が研究や専門性を発揮したうえで、観光や予算を意識した企画ができるよう、今後も引き続き、研修や指定管理者等との企画会議を充実させる。指定管理者も含めた美術館に関わる者が、美術館トータル運営を考え、連携・協力して展示・イベント等を企画・実施し、常に改善を図る。</li> <li>来館者にとって利用しやすい施設であること、美術品等の展示・保存にとって適切な維持管理が行えるよう、施設・設備等の改修や更新の時期、方法の検討と展覧会との調整を行う。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3
-------	---------

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

名称	芸術文化センター事業				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	文化芸術に対する県民の関心が高まる		421,126	429,670
			うち一般財源	190,180	187,148
今年度の取組内容	平成17年10月に開館した芸術文化センターにおいて、優れた芸術文化を提供し地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、複合施設としての特色も活かしながら様々な事業を実施する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直した点					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	芸術文化センターの入館者	目標値	330000.0	330000.0	330000.0	330000.0	3300000.0	人
	式・定義	入館者数	(取組目標値)						
			実績値	393,066.0	421,048.0	359,415.0	384,024.0		
			達成率	119.2	127.6	109.0	116.4	-	
2	指標名		目標値						
	式・定義		(取組目標値)						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
<ul style="list-style-type: none"> <li>センター全体の入館者数は、目標に対して116%の達成率であり、過去4番目に多い入館者数であった。</li> <li>美術館では企画展を4本開催し、入館者目標への全体の達成率は、95.7%となっている。</li> <li>指定管理者により、アウトリーチ演奏会等の文化事業を県内18か所で開催した。</li> <li>ボランティア団体と協働して運営を実施した。</li> </ul>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館では、平成30年度の企画展のうち1本が全国の公立美術館が加盟する美術館連絡協議会の奨励賞を受賞し、開館から13年の間に受賞回数は5回となった。</li> <li>また、森英恵ファッション文化財団からの寄附金を活用したトレーニングワークショップでは、15名の定員に対し全国から応募があり、全国のファッション関係者に館の特色をアピールする有効な活動となっている。</li> <li>芸術劇場では、グラントワカウンターに、初の国外2カ国の参加が実現するなど、芸術性の高い公演等を行うことができ、来場者アンケートでは公演満足度99%を達成した。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数が企画展や公演の内容に大きく左右される。</li> <li>修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。計画修繕だけでなく、利用者の苦情も増えている空調設備などを中心に緊急修繕も増加する見込みである。このため、今後の入館者数や利用者の満足度の維持に懸念がある。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>石見空港利用促進に繋がる取り組みを求められている。</li> <li>限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しくなっている。</li> <li>広島・山口に比べ、首都圏からの集客は限定的。</li> <li>開館から13年が経過し、施設、設備の性能劣化や老朽化が進行している。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展の開催回数や質を維持するために事業の効率化や基金の効果的な活用方法を引き続き検討していく。幅広い年代にアピールできる企画展開催を念頭に、指定管理者と連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していくとともに、観光部局、地域振興部局、その他関係機関と連携し、広島・山口だけでなく、首都圏からの集客も意識した積極的・広域的な企画や広報活動を展開する。</li> <li>来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理を実施するため、管財課や指定管理者と連携し、計画的な修繕や設備の更新等を行う。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策 施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興

1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

名称	美術品等取得				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういふ状態を目指すのか	優れた美術に触れる機会を提供する。		481	492
			うち一般財源	481	492
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展覧会の企画を通して築いた人脈や日頃の美術館の取組・姿勢に対する評価により、引き続き島根県ゆかりの美術品を寄贈いただく。</li> <li>・ 平成30年度決算に基づき、令和2年度予算で「美術品等取得基金買い戻し経費」を適切に計上する。その成果を今年度から制度導入する石見美術館も含め、美術館職員に情報提供し、職員の意識、モチベーションをより高める。</li> <li>・ 基金現在高を継続して増やせるよう、観覧料収入が予算を上回るような展覧会の企画を実施し、併せてイベントや広報による誘客を促進する。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術品取得基金の状況、創設した制度の内容等を職員が正しく理解し、観覧料収入の増加を意識した取組ができるようにすること。</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名 美術品取得点数	目標値				15.0	15.0	点
		(取組目標値)						
	式・定義 取得点数	実績値	163.0	107.0	2254.0	77.0		
		達成率	-	-	-	513.4	-	%
2	指標名	目標値						
		(取組目標値)						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術品等取得基金(定額基金)の現金残高は25百万円しかなく、平成22年度以降の購入は無し</li> <li>・ 財団法人森英恵ファッション文化財団寄附金を活用し、平成30年度は服飾(ドレス)1点を購入</li> <li>・ 近年は寄贈による取得に頼っており、学芸員の人脈や美術館の姿勢等に対し高い評価を受け、引き続き島根県ゆかりの美術品を中心に、収集方針にマッチした美術品を寄贈いただいている。</li> </ul>								

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで築いた学芸員の人脈や美術館の姿勢を評価され、引き続き多くの寄贈を受けた。</li> <li>・ 観覧料収入の増加により基金の現金残高を増やし、今後の美術品購入に繋がる制度を創設したため、職員がより観覧料収入を意識し、モチベーションを高めた。</li> <li>・ 前年度に寄贈を受けたコレクションのお披露目の展覧会が大盛況であった。</li> <li>・ 集客力の高い企画展を続けて実施し、観覧料収入が予算額を大きく上回った。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度創設により実際に基金の現金残高を増やせるのは令和2年度以降になり、また、現金残高が急に大きく増額はしないため、当面はファッション関係を除くと、購入による美術品取得は困難</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術品等の購入財源が不足(美術品等取得基金の現金残高が25百万円と僅少)</li> <li>・ 制度創設したが、効果が出せるのは令和2年度以降</li> <li>・ 基金残高をどれだけ増やせるかは観覧料収入の予算と実績次第</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術品購入に向け創設した制度を活かし、基金の現金残高を増やせるよう、観覧料収入の増加に向けた取組が必要</li> <li>・ 寄贈による美術品取得の継続</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
-------	--------------------

1 事務事業の概要

担当課	環境生活部文化国際課
-----	------------

名称	県民会館事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び文化芸術団体など	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる		222,598	249,928
			うち一般財源	119,650	106,435
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化事業 鑑賞事業(館内) 劇団四季公演、名画劇場ほか(館外) 地域ステージ、しまね映画祭ほか 育成事業(館内) ステージクリエイター養成講座ほか(館外) アトリウム事業、文化芸術による子どもの育成事業ほか 創造事業(館内) 「創作舞台 古事記」ほか(館外) しまね映画塾ほか</li> <li>・文化芸術活動支援</li> <li>・広報・利用促進</li> <li>・利用者サービス向上</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	開館50周年にあたり記念行事を実施したほか、大規模公演も多く実施して鑑賞機会の充実を図った。アウトリーチの実施継続により、派遣アーティストの候補リストやプログラムの充実を図った。譜面台やホール椅子の更新・整備を行った。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	大ホール及び中ホールの利用者数	目標値		170000.0	170000.0	170000.0	170000.0	人
		(取組目標値)							
	式・定義	利用者数	実績値	129886.0	94390.0	172646.0	159258.0		
		達成率		—	55.6	101.6	93.7	—	%
2	指標名	文化事業による参加者数	目標値		38000.0	38000.0	38000.0	38000.0	人
		(取組目標値)							
	式・定義	入場者・参加者数	実績値	49931.0	52966.0	32374.0	51453.0		
		達成率		—	139.4	85.2	135.5	—	%
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者により、公演やアウトリーチ方式の育成事業等の文化事業を55事業実施した。</li> <li>・視覚障害者がダンスワークショップを通じてダンス公演に参加する等、社会包摂機能の充実を図った。</li> </ul>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	県民ニーズに対応したコンサートや演劇、落語など幅広いジャンルの公演を実施し、文化事業への参加者の増加に繋がった。また、文化芸術による子供育成総合事業(芸術家の派遣事業)では、グラントフと連携し県の東西部を分担することで地域密着と効率化を図り、教育委員会とも連携して都市部と中山間地域の地域間格差の解消に努めた。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールの利用率が60%程度</li> <li>・地域ステージ等の観客数の伸び悩み</li> <li>・文化芸術活動の担い手不足</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化、座席数に対して使用料金が近隣施設と比べて割高</li> <li>・人口減少、文化芸術活動の担い手の高齢化</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台設備の計画的な改修や、充実した音響設備や客席とステージが近いことによる良さを生かした企画の検討</li> <li>・鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成への支援</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
-------	--------------------

1 事務事業の概要

担当課	社会教育課
-----	-------

名称 青少年文化活動推進事業					
目的	誰(何)を対象として	児童・生徒	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どうい状態を目指すのか	児童・生徒の「豊かな心」を育むとともに、地域との連携により次代の文化活動の担い手を育成する。		うち一般財源	8,680
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化活動の成果発表の機会を確保するため、島根県高等学校文化連盟（県高文連）が実施する発表会等を支援する。</li> <li>県高文連の事務局機能に対して支援を行う。</li> <li>全国高等学校総合文化祭への参加を促進するため、県高文連に対し、参加経費の一部を支援する。</li> <li>文化活動にインセンティブを与えるため、全国大会に出場する部活動を激励するとともに、全国規模の大会等で入賞した児童生徒を顕彰する。</li> <li>文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県高等学校文化連盟合同研修会等共催事業において、実践・参加型の研修会の実施を助成した。各研修では県内外から講師を招くことで、参加主体の生徒及び部活動指導者は多種多様な専門的・技術的スキルを学び、日々の活動に活かした。</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	高校における生徒の文化部への参加率（県高文連加盟校）	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	%
	式・定義	文化部生徒数／高校生徒数（県高文連加盟校）	(取組目標値)						
			実績値	30.6	30.9	30.3	30.0		
			達成率	—	103.0	101.0	100.0	—	
2	指標名		目標値						%
	式・定義		(取組目標値)						
			実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の高校生徒数が減少傾向にある中、文化部活動への参加率は概ね30%を維持している。</li> <li>【県高文連加盟校における参加率】</li> <li>H27年度 5,625人／18,375人 (30.6%)</li> <li>H28年度 5,726人／18,552人 (30.9%)</li> <li>H29年度 5,534人／18,271人 (30.3%)</li> <li>H30年度 5,470人／18,271人 (30.0%)</li> </ul>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化活動への各種支援等により、文化部活動参加率は横ばい傾向にあり、少子化が進む中においても活動の維持、活性化が図られている。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>次代の文化活動の担い手育成の体制が十分でない。</li> </ul>
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対し必要な知識や技能等を指導できる教員が充足していない。</li> </ul>
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>県高文連各専門部が開催している合同研修会や部門別文化祭等を引き続き支援し、生徒たちが専門的で技術的な指導を受けることができる場を確保していく。</li> <li>「部活動指導員」や「地域指導者」を活用し、地域の指導者と連携を図りながら部活動の質的な向上を図っていく。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
-------	--------------------

担当課	社会教育課
-----	-------

1 事務事業の概要

名称		部活動地域指導者活用支援事業				
目的	誰(何)を対象として	市町村立中学校・県立学校の生徒		事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	生徒の「豊かな心」を育むとともに、地域との連携により次代の文化活動の担い手を育成する。			8,677	13,683
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村立中学校及び県立学校の文化部活動において、専門的な指導者がいない場合等に部活動指導員及び地域指導者を活用する学校を支援することで、文化部活動の活動水準の維持・向上を図る。</li> <li>中学校文化部活動の活性化と地域社会との連携協力を推進するため、中学校の文化部活動に対し、地域貢献活動や異世代間交流活動に係る活動費を支援する。</li> <li>全国高等学校総合文化祭への参加旅費を支援し、参加を促進する。</li> </ul>					
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動指導員の任用に向けて要綱を整備し、今年度より導入するとともに、市町村に対し外部指導者の任用等について働きかける。</li> <li>昨年度末に策定した「部活動の在り方に関する方針」について県立学校、市町村教育委員会、関係機関に周知し、適正な部活動の運営について働きかけている。</li> </ul>					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	全国高等学校総合文化祭への参加部門数	目標値		16.0	16.0	16.0	16.0	部門
	式・定義	参加部門数	(取組目標値)						
			実績値	15.0	18.0	15.0	15.0		
			達成率	-	112.5	93.8	93.8	-	
2	指標名		目標値						
	式・定義		(取組目標値)						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- 地域指導者の配置（※学校数には分校・分教室を含む）
  - 【H28年度】 中学校：28校・29部活動（延べ29人）、高等学校等：37校・82部活動（延べ99人）
  - 【H29年度】 中学校：34校・36部活動（延べ40人）、高等学校等：39校・86部活動（延べ102人）
  - 【H30年度】 中学校：29校・32部活動（延べ38人）、高等学校等：37校・89部活動（延べ105人）
- 地域と中学校の文化部活動支援
  - 【H28年度】 実施校：17校（9市町）
  - 【H29年度】 実施校：21校（12市町）
  - 【H30年度】 実施校：19校（14市町）

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>H30年度は専門的な指導者がいない中学校・高等学校等の文化部活動に地域指導者を配置することにより、文化部指導者の確保、部活動の維持、活動水準の向上が図られた。</li> <li>地域指導者に加え、R1年度から部活動指導員を配置するための要綱・要領等の整備を行った。</li> <li>中学校文化部の地域交流活動に対する活動費の助成により、特に小規模校の生徒の地域参画を促し、家庭や地域における文化部活動への理解を深めることができた。</li> <li>全国高等学校総合文化祭への参加旅費や高等学校の文化部活動への各種支援により活性化を図ることができた。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動における専門的な指導者不足</li> <li>部活動顧問となる教員の部活動指導時間の確保が困難</li> </ul>
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化部活動における活動内容の多様化</li> <li>教員数の減少、教員の多忙化</li> </ul>
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動指導員及び地域指導者といった外部指導者を活用する学校を支援することにより、専門的知識をもつ指導者による指導を可能とし、文化部活動の維持・活性化を図る。</li> </ul>